

氏名	土 屋 正 夫
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1758 号
学位授与の日付	昭和62年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学位論文題目	肝疾患における ELISA 法によるエンドトキシン抗体の臨床的意義 に関する研究 第 1 編 ELISA 法による肝疾患患者血清中のエンドトキシン抗体 の測定法 第 2 編 肝疾患におけるエンドトキシン抗体の臨床的意義について — 免疫グロブリン・クラスの結果も含めて —
論文審査委員	教授 木村郁郎 教授 太田善介 教授 金政泰弘

学位論文内容の要旨

腸管由来のいわゆる内因性エンドトキシンによる肝疾患病態の修飾について、液性免疫の面から明らかにすることを目的として、第 1 編では、エンドトキシン抗体の ELISA 法、とくに毛細管比色計による微量定量法につき検討を行い測定法を確立した。更に、第 2 編では、その測定法を用いて、肝疾患各種病型における抗体価を免疫グロブリン・クラス別に測定し、肝疾患におけるエンドトキシン抗体の意義について検討した。

その結果、IgG 抗体ならびに IgA 抗体は肝障害の重症度と関連した成績を示したが、IgA 抗体はアルコール性肝障害では肝障害の重症度に比較し高値を示す例が多かった。IgM 抗体は肝障害の重症度との関連を示さなかったが急性増悪時に上昇を示した。肝硬変では、食道静脈瘤ないし腹水有り群に特にエンドトキシン IgA 抗体が高かった。肝疾患少数例においては、菌種の違いにより異なる免疫グロブリン・クラスの反応や反応の時期の違いを示す例があった。

以上のことより、エンドトキシン抗体は多様性をもって肝疾患における高ガンマグロブリン血症に関与すると共に、単に 2 次的結果ではなくエンドトキシンの肝障害における直接関与の可能性が示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究は肝疾患における ELISA 法によるエンドトキシン抗体について臨床的に研究したものであるが、従来十分検討されていなかった本抗体についてその測定法を確立し、更に、肝疾患各種病型において抗体価を免疫グロブリンクラス別に測定したところ、IgG 抗体及び IgA 抗体は肝障害の重症度と関連した成績を示し、一般に本抗体は多様性をもって肝障害における高ガンマグロブリン血症に関与していることを認め、重要な価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。